

第1章

開催の決定から大会に向けた取組



第1章 開催の決定から大会に向けた取組

第1部 開催の決定から大会に向けた準備

- ラグビーワールドカップがアジアで初めて2019（令和元）年に日本で開催されることが、2009（平成21）年7月に決定した。また、2015（平成27）年3月には、東京都が全国12の開催都市の一つに決定した。
- 都は、大会開催に向け、（公財）ラグビーワールドカップ2019組織委員会等と連携し、着実に準備を進めた。

1 日本での開催決定

ラグビーワールドカップ（以下「RWC」という。）は、15人制ラグビーの世界王者を決定する世界的なスポーツ大会であり、1987（昭和62）年の第1回大会以降、4年に一度開催されている。

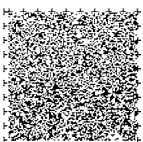
第1回大会は、ニュージーランド・オーストラリアの共催で、以後、第2回（1991年）はイングランド、第3回（1995年）は南アフリカ、第4回（1999年）はウェールズ、第5回（2003年）はオーストラリアで開催された。

（公財）日本ラグビーフットボール協会（以下「JRFU」という。）は、2004（平成16）年7月、第7回大会（2011年）を招致することを決定し、ラグビー伝統国以外で初となる日本での開催に向け、招致活動を行った。しかし、2005（平成17）年11月、ラグビーの国際統括団体である国際ラグビーボード（現ワールドラグビー。以下「WR」という。）の理事会において、第7回大会はニュージーランドで開催されることが決定した。

JRFUは、翌2006（平成18）年11月、再びRWCの招致活動を行うことを表明し、2009（平成21）年7月、国際ラグビーボード理事会において、第9回大会（2019年）をアジアで初となる日本で開催することが決定された（同時に第8回大会（2015年）のイングランド開催も決定された。）。

<ラグビーワールドカップ開催一覧>

開催年	ホストユニオン
第1回（1987年）	ニュージーランド・オーストラリア
第2回（1991年）	イングランド
第3回（1995年）	南アフリカ
第4回（1999年）	ウェールズ
第5回（2003年）	オーストラリア
第6回（2007年）	フランス
第7回（2011年）	ニュージーランド
第8回（2015年）	イングランド
第9回（2019年）	日本



2 開催都市への立候補

JRFUは、2010（平成22）年11月、大会の準備・運営（開催業務）を専門に行う機関としてラグビーワールドカップ2019組織委員会（以下「組織委員会」という。2013（平成25）年4月に公益財団法人に移行）（会長 御手洗富士夫）を立ち上げた。

組織委員会は、2013（平成25）年10月に「開催都市ガイドライン」を発表し、日本全国の自治体から開催都市の希望申請を受け付けた。

都は、2014（平成26）年10月、新国立競技場を試合会場として開催希望申請書を組織委員会に提出し、RWC2019の開催都市に立候補した。

（立候補の主な理由）

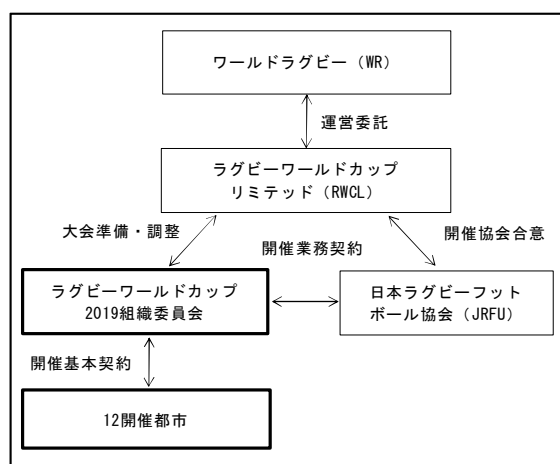
- ・ RWCは、世界的なスポーツの祭典であり、東京での開催は、スポーツ都市東京を世界へアピールするとともに、都民のスポーツへの関心を高める絶好の機会となること
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）に向けて大会運営ノウハウを蓄積できること
- ・ 多くの外国人観光客の来日による都内の経済波及効果は約866億円と見込まれること
- ・ 東京を起点として、全国の各都市で行われるRWCをPRし、盛り上げることができること

3 開催都市の決定

2015（平成27）年1月、開催都市選定プロセスの一環として、WRからRWC2019の運営を委託されたラグビーワールドカップリミテッド（以下「RWCL」という。）及び組織委員会が候補都市を訪問し、東京の視察も行った。

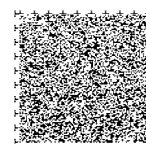
都は、視察時に実施したプレゼンテーションにおいて、東京開催により世界が注目するRWCとオリンピック・パラリンピック競技大会を2年連続で開催する世界で初めての都市となり、東京2020大会との相乗効果が期待されることや、都市としての東京の魅力、東京におけるラグビーの実績など、開催のメリットを強くアピールした。

＜ラグビーワールドカップ関係組織図＞



その後の同年3月、アイルランドのダブリンで行われたRWCL理事会において、東京都を含む12都市が開催都市に決定した。

なお、東京の試合会場については、新国立競技場の建設計画見直しに伴い、同年9月に同競技場から東京スタジアムに変更された。試合会場の変更に伴い、2016（平成28）年1月、大会開催に伴う都内の経済波及効果を約824億円に修正した。



4 イングランド大会（2015年）視察

都は、大会準備の一環として、2015（平成27）年10月、イングランドで開催されたRWC2015を視察した。現地では、試合会場や会場周辺、ファンゾーンの運営状況などについて情報収集するとともに、WR関係者との意見交換を行った。

5 試合日程等の決定

2017（平成29）年5月、京都迎賓館において、プール組分け抽選会が行われ、決勝トーナメントに進むためのプール戦を行う4つのグループ（プール）が決定された。



プール組分け抽選会

<プール組分け抽選会結果>

※抽選会時点

プールA	プールB	プールC	プールD
<ul style="list-style-type: none"> ・アイルランド ・スコットランド ・日本 ・ヨーロッパ地区1 ・ヨーロッパ・オセアニアプレーオフ1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュージーランド ・南アフリカ ・イタリア ・アフリカ地区1 ・敗者復活予選優勝チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・イングランド ・フランス ・アルゼンチン ・アメリカ地区1 ・オセアニア地区2 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア ・ウェールズ ・ジョージア ・オセアニア地区1 ・アメリカ地区2

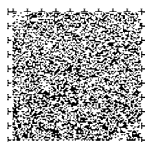
同年11月には、グランドプリンスホテル新高輪において、試合日程及びチケット概要が発表された。東京スタジアムでは、開会式・開幕戦を含め、開催都市の中で最も多い8試合が開催されることとなった。

<東京スタジアムにおける試合日程>

※発表時点

日程	試合
9月20日（金）	日本 対 ヨーロッパ地区代表
9月21日（土）	フランス 対 アルゼンチン
9月29日（日）	オーストラリア 対 ウェールズ
10月5日（土）	イングランド 対 アルゼンチン
10月6日（日）	ニュージーランド 対 アフリカ地区代表
10月19日（土）	準々決勝2（プールB1位 対 プールA2位）
10月20日（日）	準々決勝4（プールA1位 対 プールB2位）
11月1日（金）	3位決定戦

東京スタジアムで開催される開幕戦において、日本と対戦するヨーロッパ地区代表は、2018（平成30）年3月、ルーマニアに決定した。その後、ルーマニアの選手が代表資格要件に違反していたとして、同年6月、ヨーロッパ地区代表がロシアに変更となり、開幕戦は、日本対ロシアの試合となった。



なお、同年11月、大会へ出場する全20チームが確定した（全出場チーム名は、大会概要を参照）。

6 チケット販売

組織委員会は、2018（平成30）年1月からチケットの先行抽選販売を開始し、同年9月からは一般抽選販売、2019（平成31）年1月からは一般先着販売を開始した。

チケット販売状況が好調な中、2019（令和元）年9月20日（金）の開幕戦を迎え、東京スタジアムでは、全8試合で、試合会場での当日券販売は行われなかった。

<チケット販売スケジュール>

日程	種類
2018（平成30）年1月～	先行抽選販売（ラグビーファミリー、開催都市住民、ラグビーフレンズ、サポーターズクラブ等）
2018（平成30）年9月～	第一次一般販売（抽選）
2019（平成31）年1月～	第二次一般販売（先着）
2019（令和元）年5月～	第三次一般販売（先着）、公式リセールサービス
2019（令和元）年8月～	第四次一般販売（先着）

7 都議会における活動

都議会では、2014（平成26）年10月、超党派で構成された「東京都議会ラグビーワールドカップ2019日本大会成功議員連盟」が設立され、大会開催までに総会を8回開催した。

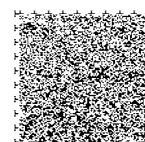
【議連総会における主な議事・報告事項】

- ・ RWC2015の運営状況について
- ・ ラグビーテストマッチについて
- ・ 東京スタジアム改修整備計画について
- ・ 大会の準備状況について

その他、次の活動を行うなど、大会の盛り上げと準備を後押しした。

- ・ 2016（平成28）年6月 ラグビーテストマッチ（日本代表 対 スコットランド代表）を視察し、運営状況を確認
- ・ 2017（平成29）年6月 ラグビーテストマッチ（日本代表 対 アイルランド代表）を視察し、運営状況を確認
- ・ 2018（平成30）年11月 ラグビーテストマッチ（日本代表 対 ニュージーランド代表）を視察し、運営状況を確認
- ・ 2019（令和元）年9月～ 大会開催に先立ち開催されたファンゾーン区部会場の内覧会に参加し、準備状況を確認
RWC2019において、全国の試合会場を視察し、各都市における大会の成功を応援

2015（平成27）年12月には、RWC2019の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行うため、オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会にラグビーワールドカップ特別対

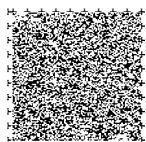


策委員会が設置された。また、2017（平成29）年8月には、オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ推進対策特別委員会が改めて設置された。

また、都議会として、RWC2015に調査団を派遣し、大会の運営状況等を視察し、その後の都議会における調査等に活かした。

<特別委員会への報告事項>

年	月日	報告事項
2015（平成27）年	12月16日（水）	・RWC2019の概要について
2016（平成28）年	1月29日（金）	・RWC2019の東京都における経済波及効果について
	7月12日（火）	・開催都市マークについて ・公認チームキャンプ地について ・RWCLによる会場視察について ・ラグビーテストマッチについて
2017（平成29）年	2月21日（火）	・東京スタジアムの会場運営計画案について ・交通アクセス対策について
	5月26日（金）	・RWC2019プール組分け抽選会 ・東京スタジアムの改修整備計画について
	9月13日（水）	・ラグビーテストマッチについて
	11月6日（月）	・RWC2019試合日程及びチケット販売概要について
2018（平成30）年	1月30日（火）	・RWC2019のボランティア募集について
	3月9日（金）	・東京都交通輸送基本計画について
	5月7日（月）	・RWC2019公式ボランティアプログラムについて
	5月24日（木）	・都内の公認チームキャンプ地内定について ・大会500日前イベントについて
	7月31日（火）	・ファンゾーン会場候補地に関する都の考え方について
	10月4日（木）	・東京スタジアムの会場運営計画の更新案について
2019（平成31・令和元）年	12月25日（火）	・ラグビーテストマッチ（11月3日開催）について
	1月31日（木）	・ファンゾーン運営計画（素案）について
	3月22日（金）	・東京都交通輸送実施計画について ・都内の公認チームキャンプ地決定について
	4月23日（火）	・ファンゾーン運営計画（案）について
	6月26日（水）	・都のセキュリティ・医療対策について ・RWC2019に関わる都の主な取組について
	11月11日（月）	・RWC2019開催結果（速報）について
2020（令和2）年	1月31日（金）	・RWC2019大会報告について



8 組織委員会等との連携

(1) 組織委員会の概要

組織委員会は、試合の運営、各チームへのサービス、チケット販売等、大会を運営する役割を担う。

一方、各開催都市は、試合会場等の提供、試合会場への観客誘導等の交通輸送・セキュリティ対策、気運醸成のためのイベント開催、ファンゾーン運営、ボランティアプログラムの支援などの役割を担うとともに、組織委員会の大会運営を支援するため、各開催都市が分担金（都は8億円）を拠出したほか、職員の派遣を行った。

また、各試合会場で効果的・効率的に業務を行い、開催自治体及び地元ラグビー協会などと連携して開催準備を進めていくため、組織委員会は、2018（平成30）年4月に、各開催都市に地域支部（LOC）を設置した。東京には、東京スタジアム敷地内に東京地域支部が設置された。

(2) 組織委員会理事会

組織委員会は、年2～4回開催される理事会において、予算・決算、大会に向けたスケジュール、組織委員会の運営等を決定した。なお、2016（平成28）年度からは、各開催都市の副知事、副市長が理事として出席した。

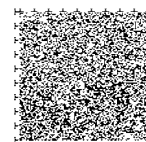
また、2017（平成29）年以降、理事会に先立ち、組織委員会と開催自治体による調整会議が開催され、大会の準備状況等について、情報共有や意見交換が行われた。

(3) 開催都市合同会議及び開催都市連携会議

開催都市と組織委員会間の実務的な連絡・調整・協議を行うため、2015（平成27）年3月から2017（平成29）年8月にかけて12開催都市と組織委員会による開催都市合同会議が6回開催され、各種計画策定や大会の気運醸成等について意見交換を行った。

<開催都市合同会議>

	日時	場所	主な内容
第1回	2015（平成27）年 3月24日（火）～ 25日（水）	大阪	<ul style="list-style-type: none"> 基本契約に関する業務分担について RWC2015視察について 開催都市ロゴデータ使用ガイドライン、ジャパンパビリオンについて
第2回	2015（平成27）年 8月21日（金）～ 22日（土）	福岡	<ul style="list-style-type: none"> 2015（平成27）年度の活動（協賛宝くじ及び開催都市分担金等、職員の派遣等について） 大会開催事業の概要（組織委員会の体制、地域活性化について） 大会開催に必要な業務について
第3回	2016（平成28）年 3月15日（火）～ 16日（水）	神戸	<ul style="list-style-type: none"> 気運醸成施策等について 大会予算、開催都市分担金等について LOCの立ち上げについて
第4回	2016（平成28）年 9月15日（木）～ 16日（金）	静岡	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング・コミュニケーション戦略について ファンゾーンポリシーについて RWCLの知的財産について
第5回	2017（平成29）年 3月14日（火）～ 15日（水）	大分	<ul style="list-style-type: none"> 広報関連のガイドラインについて チケット販売計画の進捗について 交通輸送・警備の今後のスケジュール
第6回	2017（平成29）年 8月29日（火）～ 30日（水）	札幌	<ul style="list-style-type: none"> 交通輸送計画及び警備基本ガイドラインについて テストイベントについて チケット販売のスケジュール



2018（平成30）年度からは、準備が具体化する段階に対応するため、開催都市合同会議に代えて、開催都市ごとに組織委員会と調整・協議を行う開催都市連携会議が開催された。東京では、2018（平成30）年6月から2019（令和元）年8月にかけて、4回実施され、組織委員会との連携体制等について議論した。

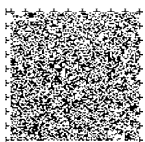
<開催都市連携会議>

	日時	主な内容
第1回	2018（平成30）年 6月29日（金）	・観客輸送基本計画、警備、危機管理ガイドラインについて ・喫煙所設置について ・清掃について
第2回	2019（平成31）年 2月6日（水）	・大会本番時における体制や、開催都市と組織委員会の連携について ・一般観客輸送について ・大会時の配布物等について
第3回	2019（令和元）年 5月9日（木）	・大会当日の体制について ・危機事象発生時における対応及び開催都市との連携について ・チケットホルダー等への情報発信について
第4回	2019（令和元）年 8月6日（火）	・危機事象におけるシミュレーション ・大会当日の運営について ・チケットホルダー等への情報発信について

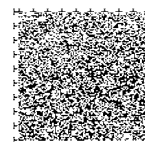
（4）大会関係者の訪問

大会の気運醸成や準備への協力などを目的に、WR等大会関係者が都庁を訪問した。

- ・ RWC2019 アンバサダー及びラグビー日本代表選手等来訪
日 時：2016（平成28）年10月3日（月）
訪問者：RWC2019 アンバサダー 大畑 大介氏
（ラグビー日本代表選手）大野 均氏、小瀧 尚弘氏
（組織委員会）嶋津 昭 事務総長
- ・ ビル・ボーモント WR 会長等来訪
日 時：2017（平成29）年11月2日（木）
訪問者：（WR）ビル・ボーモント会長、ブレット・ゴスパーCEO、
アラン・ギルピン RWC 統括責任者
（JRFU）岡村 正 会長、坂本 典幸 専務理事
（組織委員会）嶋津 昭 事務総長、河野 一郎 事務総長代行
- ・ ジェイミー・ジョセフ日本代表ヘッドコーチ等来訪
日 時：2018（平成30）年11月2日（金）
訪問者：日本代表ヘッドコーチ ジェイミー・ジョセフ氏
（JRFU）坂本 典幸 専務理事、薫田 真広 日本代表強化委員長



- ブレット・ゴスパーWR CEO 等来訪
日 時：2019（令和元）年6月13日（木）
訪問者：（WR）ブレット・ゴスパー CEO
（組織委員会）嶋津 昭 事務総長
- 森 重隆 JRFU 会長来訪
日 時：2019（令和元）年9月12日（木）
訪問者：（JRFU）森 重隆 会長
- 嶋津 昭 組織委員会事務総長等来訪
日 時：2019（令和元）年11月25日（月）
訪問者：（組織委員会）嶋津 昭 事務総長
（JRFU）岩渕 健輔 専務理事



第2部 東京スタジアムでのテストマッチにおける検証

- 都は、大会開催までに東京スタジアムで3回実施されたラグビーテストマッチ(ナショナルチーム同士の公式国際試合)を大会に向けた準備の一環と位置付け、交通輸送やボランティア、イベント運営などの検証を行った。
- 検証結果をRWC2019の交通輸送やファンゾーンの計画等に反映した。

1 2016(平成28)年6月25日(土)

(1) テストマッチ

ア 概要

対戦カード：日本代表 対 スコットランド代表
 試合開始時間：19時20分
 主催：JRFU
 入場者数：34,073人

イ 都の主な取組

【交通輸送】

- ・ シャトルバスを3系統運行(復路のみ)(調布駅、武蔵境駅、狛江駅)
- ・ 飛田給駅における特急・準特急の臨時停車

【会場動線】

- ・ 招待者用の駐車場として北側駐車場を使用
- ・ 駐車場等から試合会場への誘導員配置

【試合会場内のアクセシビリティ】

- ・ 車椅子利用者のための駐車場や観戦スペースを確保

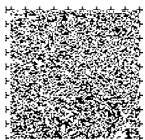
(2) 関連イベント「ラグビーフェスティバル2016&TOKYO」

ア 概要

開催時間：12時～22時30分
 会場：東京スタジアム南側広場、東側補助競技場(調布市)
 主催：東京都、
 (公財)東京都スポーツ文化事業団
 内容：パブリックビューイング、トークショー、ウィルチェアーラグビー体験、ストリートラグビー大会等
 来場者数：約19,000人



パブリックビューイング



イ 都の主な取組

【イベント会場へのアクセス等】

- ・ 動線上でのボランティア等による誘導、看板設置等
- ・ 入退場口（1か所）での簡易手荷物検査の実施

【ボランティア】

- ・ 試合会場周辺自治体（三鷹市、府中市、調布市）（以下「地元3市」という。）、大学等のボランティアによる協力
- ・ 観客誘導、ラグビー体験補助等に従事



トークショー

2 2017（平成29）年6月24日（土）

(1) テストマッチ

ア 概要

対戦カード：日本代表 対 アイルランド代表

試合開始時間：14時40分

主 催：JRFU

入 場 者 数：29,354人



ボランティアによる案内誘導

イ 都の主な取組

【交通輸送・会場動線】

- ・ シャトルバスの往復運行・系統の多様化（調布駅、多磨駅、武蔵境駅、狛江駅、武蔵小金井駅（復路のみ））
- ・ HPや印刷物等による複数来場ルートのお知らせ
- ・ イベント会場周辺のサイン表示の工夫や、入退場口を複数設置するなど、円滑な動線を確保

【ボランティア】

- ・ （一財）東京マラソン財団や東京スタジアムをホームとするJリーグチームなどの試合でスポーツボランティアの実績のある団体等と連携し、ボランティアを募集
- ・ イベント運営や観客誘導等に加え、駅・会場周辺での案内誘導、語学対応等に従事し、活動内容を拡充

(2) 関連イベント「東京ラグビーファンゾーン2017」

ア 概要

開催時間：11時～18時

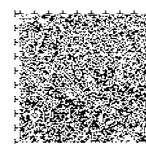
会 場：東京スタジアム西競技場（調布市）

主 催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団

内 容：パブリックビューイング、トークショー、ラグビー体験、ウィルチェアーラグビー体験、人文字ラグビーボール、開催都市PR



イベント会場の様子



ブース、アイルランド音楽ステージ、地元3市パフォーマンスステージ等
来場者数：約 21,000 人

イ 都の主な取組

【イベント運営】

- ・ 競技体験等の参加型コンテンツ充実
- ・ 地元3市・開催都市等によるブース出展及びステージ出演
- ・ アイルランド音楽等、試合後も楽しめるプログラムの工夫

【気運醸成・観戦促進】

- ・ SNS等を活用した広報活動
- ・ 京王線への中刷り広告の掲出等、交通機関における周知の強化

3 2018（平成30）年11月3日（土・祝）

（1）テストマッチ

ア 概要

対戦カード：日本代表 対 ニュージーランド代表

試合開始時間：14 時 45 分

主 催：JRFU

入場者数：43,751 人

イ 都の主な取組

【交通輸送】

- ・ 飛田給駅における特急・準特急の臨時停車本数の増加
(2017年：36本 ⇒ 2018年：46本)
- ・ シャトルバス運行ルートの事前案内及び積極的な観客誘導、運行本数の増加
(2017年：70本 ⇒ 2018年：121本)
- ・ 中央自動車道及び国道20号（甲州街道）の混雑緩和のための横断幕掲出等による事前周知
- ・ 甲州街道における高柵等の設置や巡回警備による乱横断や路上駐停車の防止

【ボランティア】

- ・ RWC2019のボランティアのうち、東京都観光ボランティア及び（一財）東京マラソン財団オフィシャルボランティアクラブから推薦されたボランティアを活用
- ・ 試合会場周辺エリア、会場周辺駅（飛田給駅、多磨駅、西調布駅）、新宿駅及びイベント会場で、アクセスやイベント内容の案内等を実施

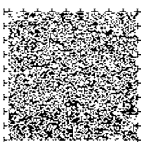
（2）関連イベント「東京ラグビーファンゾーン 2018」

ア 概要

開催時間：11 時～17 時

会 場：東京スポーツスクエア（千代田区）

主 催：東京都



内 容：パブリックビューイング、トークショー、ミニライブ、ラグビー体験、大会優勝トロフィー展示等

来場者数：約 3,000 人



パブリックビューイング

イ 都の主な取組

【イベント運営】

- ・ 大型モニターを3台設置し、熱気と歓声に包まれる立ち見スタイルや、フードも楽しむカフェスタイル等、多様なスタイルで観戦できるパブリックビューイングの実施
- ・ ラグビー選手等によるトークショーの実施
- ・ 対戦国やRWC2019 出場国等にちなんだ飲食ブースの設置



トークショー

【気運醸成・観戦促進】

- ・ SNS等を活用した広報活動
- ・ テストマッチに合わせた京王線・小田急線新宿駅での集中広告による気運醸成

(3) 調布スクラムフェスティバルとの連携

調布駅前広場において開催された、パブリックビューイングイベント「調布スクラムフェスティバル vol. 3」(主催：調布市、共催：東京都)と連携し、試合後のトークショーについて、シャトルバスの運行状況と連動させ、開始時間を前倒しして実施するなど、本番時のファンゾーンを想定した運営状況の確認を行った。

4 大会運営計画等への反映

テストマッチにおける取組を踏まえ、各種計画等に反映した。

【主な事項】

- ・ テストマッチ時における入退場の状況を考慮し、観客の交通分担率や入退場分布を設定するとともに、一層の入退場時間の分散化を図るため、飛田給駅の臨時停車時間の設定や案内チラシの作成等の事前広報などを交通輸送実施計画に反映(第3章第3部を参照)
- ・ テストマッチ時の甲州街道における歩行者の混雑や乱横断の状況等を踏まえ、警備員配置やスタジアム前交差点付近におけるパイプ柵を設置を警備計画に反映(第3章第4部を参照)
- ・ ファンゾーンについては、テストマッチ時における東京スタジアムでの入退場の状況を踏まえ、開催時間を試合前後も含めて設定した。また、有楽町で実施したイベントに周辺施設の買い物客の来場も多く見られたことや、調布のイベントにおいて家族連れ来場者が多くあったことなど、来場者の傾向を踏まえ、周辺施設との連携やラグビー体験等のコンテンツに反映(第4章を参照)
- ・ ボランティアの活動に当たっては、活動に必要な情報の提供など、配置場所に応じた研修を充実。また、対応可能言語を示した腕章の作成や、翻訳アプリの活用など、外国人への多言語対応を充実(第5章を参照)

